



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月10日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 下條 三千夫
 (氏名) 佐々 昌俊
 TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	10,180	15.1	361		293		357	
2020年3月期第3四半期	11,983	3.1	198	5.6	246	9.3	151	10.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 314百万円 (%) 2020年3月期第3四半期 152百万円 (38.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	18.43	
2020年3月期第3四半期	7.79	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	15,856	13,775	86.9
2020年3月期	15,967	14,089	88.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 13,775百万円 2020年3月期 14,089百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,011	9.2	593		523		612		31.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	21,076,154 株	2020年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,668,306 株	2020年3月期	1,668,365 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	19,407,826 株	2020年3月期3Q	19,408,066 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が国内外の経済活動に深刻な影響を及ぼし、景気が低迷し、大変厳しい状況が続きました。国内では、2020年5月の緊急事態宣言解除による経済活動の再開に伴い、一時的に回復の兆しが見えたものの、11月からの第3波による感染再拡大とそれに伴う2回目の緊急事態宣言の発出によって、雇用・所得環境の悪化や個人消費への影響の長期化が懸念され、先行きの不透明感は一層強まっております。

このような状況のもと、当社グループでは、お客様と従業員の安全と健康を最優先課題と位置づけ、新型コロナウイルス感染予防策の徹底に取り組んでまいりました。また、当社は、2021年に創業80周年、設立60周年を迎えました。お客様からの長年のご愛顧に応えるべく、引き続きお客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた諸施策を推進し、新型コロナウイルス感染症の収束後の事業展開を見据えた取り組みも併行して行うとともに、組織面においても、業務の効率化と働き方改革に取り組み、プロアクティブな組織づくりを進めてまいります。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は10,180百万円（前年同四半期比15.1%減）となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が期初から5月にかけて顕著に現れ、来店客数が大幅に落ち込んだため、第1四半期連結会計期間は前年同四半期比で35.9%減となりました。第2四半期以降当第3四半期連結会計期間末日までの期間は、緊急事態宣言解除を受け、売上は回復し、前年同期比で5.1%減となりました。売上総利益率は、主に価格施策や品種別の売上構成比の変化の影響で0.9ポイント上昇しました。一方、経費面では、経費コントロールの徹底を図り、チラシやCMなど販売促進施策の見直しによる広告宣伝費の抑制、その他の販売費の削減、休業店舗のテナント家賃の減免、休業や営業時間の短縮による時間外勤務の減少などにより、販売費及び一般管理費は7,503百万円（前年同四半期比7.4%減）となりましたが、売上高販管費率は大幅な売上高の減少が響き6.1ポイント上昇しました。

この結果、営業損失は361百万円（前年同四半期は営業利益198百万円）、経常損失は293百万円（前年同四半期は経常利益246百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は357百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益151百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた快適で安心な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の強化に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応した商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図るとともに、お客様に選ばれる「愛眼ブランド」の競争優位性の確保とマーチャンダイジングの最適化を通じて、質の高いサービスを提供できる体制の構築に取り組んでまいりました。

売上高につきましては、期初から5月にかけて新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、ロードサイド店舗以外の一部インショップ店舗での臨時休業や時短営業に加え、外出自粛に伴って一時的に客足が遠のく状況に陥ったことなどが影響した結果、第1四半期連結会計期間において、中心品目のメガネ販売は前年同四半期比で32.6%減少し、準主力品目の補聴器、サングラスの売上も各々41.2%、54.9%減少しました。6月以降客足は徐々に戻り、第2四半期以降当第3四半期連結会計期間末日までの期間におきましては、メガネ販売と補聴器は、前年同期比で各々1.9%減、7.8%減まで回復したものの、サングラスは、夏場にかけてのハイシーズン時期の長梅雨・大雨・日照不足などの天候不順や外出自粛の影響に加え、イベント・スポーツなどの屋外活動に対する政府や自治体による注意喚起の広がりもあり、前年同期比27.4%減と売上不振の状況が続きました。以上により、当第3四半期連結累計期間におきましては、メガネ販売は前年同四半期比で11.6%減少し、また、補聴器、サングラスの売上は各々18.8%、37.9%減少し、全体においても前年同四半期比で14.8%の減収となりました。

店舗につきましては、1店舗を新規に出店し、1店舗を閉店いたしました。また既存店7店舗で活性化改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は9,752百万円（前年同四半期比14.8%減）、セグメント損失は284百万円（前年同四半期はセグメント利益275百万円）となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けている取引先への販売支援に努めてまいりましたが、取引先の売上不振等によって卸売上額が減少しました。

この結果、売上高は298百万円（前年同四半期比15.4%減）となり、セグメント損失は2百万円（前年同四半

期はセグメント利益4百万円)となりました。

[写真館事業]

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により撮影日の変更やキャンセルが増え、撮影件数が大幅に減少しましたが、感染予防策の来店事前予約制度や、成人式の着物レンタル事前予約のお客様に対しては、万が一式典が中止になった場合でも、キャンセル料を無料とする対応をするなど「安心・納得・顧客第一」の方針で取り組んでまいりました。店舗施策では、2021年1月に大阪府内の近鉄あべのハルカス店と東大阪若江店の2店舗を閉店し、横浜本店の1店舗のみとなります。横浜本店では、今後ともお客様に安全・安心な環境のもとで撮影に臨んでいただけるよう引き続き安全対策を万全にした上で、お客様の人生の節目節目の記念日を感動的で素敵な思い出にできる撮影メニューやお召しいただく素晴らしい衣装や小物を数多く揃え、営業に取り組んでまいります。

この結果、写真館事業における売上高は59百万円(前年同四半期比9.4%減)、セグメント損失は33百万円(前年同四半期はセグメント損失58百万円)となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、中国の北京市及び天津市の直営店やフランチャイズ店が、所在地地域の新型コロナウイルス感染症の感染予防政策の影響を受け、客数は大幅な減少となりましたが、2020年5月以降、感染状況の改善に伴い客足は戻ってきているものの、客数は未だ完全な回復までには至っておりません。また、直営店は5店舗から1店舗減り4店舗になりました。

この結果、売上高は69百万円(前年同四半期比40.0%減)、セグメント損失は18百万円(前年同四半期はセグメント損失5百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末に比べ、現金及び預金の減少、敷金及び保証金の減少等により111百万円減少し、15,856百万円(前連結会計年度末比0.7%減)となりました。また、負債合計は支払手形及び買掛金の増加等により203百万円増加し、2,081百万円(前連結会計年度末比10.8%増)となり、純資産合計は13,775百万円(前連結会計年度末比2.2%減)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年11月5日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,376	5,116
受取手形及び売掛金	636	815
有価証券	—	200
商品及び製品	2,088	2,076
原材料及び貯蔵品	32	30
その他	262	385
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	8,393	8,622
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,050	1,039
土地	1,878	1,878
その他（純額）	301	360
有形固定資産合計	3,231	3,278
無形固定資産		
リース資産	4	—
その他	79	67
無形固定資産合計	84	67
投資その他の資産		
投資有価証券	672	539
敷金及び保証金	3,187	2,957
その他	398	391
投資その他の資産合計	4,258	3,888
固定資産合計	7,573	7,233
資産合計	15,967	15,856

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	443	601
未払法人税等	155	57
賞与引当金	1	1
その他	760	903
流動負債合計	1,361	1,564
固定負債		
繰延税金負債	13	30
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	328	327
リース債務	6	6
その他	162	145
固定負債合計	516	517
負債合計	1,878	2,081
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,124	4,767
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	16,514	16,156
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	66
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	24	23
その他の包括利益累計額合計	△2,424	△2,381
純資産合計	14,089	13,775
負債純資産合計	15,967	15,856

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	11,983	10,180
売上原価	3,685	3,038
売上総利益	8,298	7,141
販売費及び一般管理費	8,100	7,503
営業利益又は営業損失(△)	198	△361
営業外収益		
受取利息	5	3
受取配当金	9	9
受取家賃	58	55
その他	21	38
営業外収益合計	94	106
営業外費用		
固定資産除却損	6	1
賃貸費用	36	34
その他	3	2
営業外費用合計	46	38
経常利益又は経常損失(△)	246	△293
特別利益		
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
投資有価証券評価損	2	—
減損損失	25	—
特別損失合計	27	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	220	△293
法人税、住民税及び事業税	69	63
法人税等調整額	△0	1
法人税等合計	69	64
四半期純利益又は四半期純損失(△)	151	△357
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	151	△357

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	151	△357
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	44
為替換算調整勘定	△4	△0
その他の包括利益合計	1	43
四半期包括利益	152	△314
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	152	△314
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	11,449	352	65	115	11,983	—	11,983
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	53	—	—	53	△53	—
計	11,449	406	65	115	12,037	△53	11,983
セグメント利益又は損失 (△)	275	4	△58	△5	215	△17	198

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△25百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	25	—	—	—	—	25

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに配分していない全社資産に係るものであります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	9,752	298	59	69	10,180	—	10,180
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	44	—	—	44	△44	—
計	9,752	343	59	69	10,224	△44	10,180
セグメント損失(△)	△284	△2	△33	△18	△338	△22	△361

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△30百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。